

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 140 号	2013年3月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 2月21日(木)初集会で依頼のあったビオトープ内の大きな工事等の現地調査をしました。
市からは 環境政策課 川崎課長補佐・田戸担当係員、会からは今井会長・原田・田村 両副会長
事務局で、水車横の市道下配管水漏れ工事・須賀河内川浚渫・トイレ設置について現地説明しました。
- 3月3日(日)14名の会員と親子自然観察隊一期生の中本君が応援に来ていただき沢山の維持活動が出来ました。
- ① 湿地帯のタテバチドメグサの駆除
 - ② 溜池ゾーンのイグサ・スゲの間引き
 - ③ 湿地帯の散策橋腐食修復用のコンクリート桁(U字溝)の運搬と一部据え付けが来ました。
 - ④ 水車水路の溝浚え、間引きスゲや笹竹の処分
- その他 宇部市生物多様性地域連携保全活動の応援団体としての我々「つくる会」のなすべきことについて協議しました。
- 3月16日(土)平成24年度の最後の活動で14名の参加でした。
- ②□エコアップ 湿地帯のスゲ草間引き、タテバチドメグサの駆除
※4月以降は主に散策道の草刈が主となりエコアップは8月の水藻除去作業まで休止です。
 - ② 維持管理
水路の整備（地下パイプの詰まり掘削し修復）
※今後の葉っぱの詰まりでの点検が容易になりました。
湿地帯散策橋の腐食部を除去しU字溝にて跳び橋に変更

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎見学者 — 現在のところ計画は有りません
- ◎行 事
—4月6日(土)総会 二俣瀬ふれあいセンター 9時から会議室
午後可能な方のビオトープ整備・駐車場の草刈を行います。
- 4月16日(土)親子自然観察隊
結隊式 プレゼンテーション二俣瀬ふれあいセンターで9時より
ビオトープ異動後（食べられる野草）

3. 来訪者の声

— 3月10日 里山造りに汗を流した者として、立派に維持されており安心しました。水車の据付は大変でした。これからも大切に守って下さい。 K. O

4. 会員の声【 世の衰退は大奥より 】 (原田満洲夫 記)

私個人は自治会を含む多くの校区ボランティア活動に6年ぶりに解き放たれた。

今から先の自分の余暇を如何に有意義に過ごすか大問題となった。図らずも宇部市が進める「竹やぶから竹林へ」の一環事業の一部の竹林調査の仕事を引き受けた。自分の間はボケる事無く動くことが出来る。

8年ごろ前のある企業が行った宇部市全域の竹林調査が今現在どのような変化を起しているか？航空写真に取り込んだ竹林の調査記録を再調査している。吉部・万倉。小野の奥方面がおおよそ終わり、市街地に向かって南下しているが、一日の調査作業が終わって二俣瀬に帰ってくると何と二俣瀬は都会に思われる。国道2号線にひっきりなしに走っている大型トラックや乗用車をみると、なんと一安心を感じるのである。

過疎化された部落、過去には9軒あったとか5軒あったとか、“今は私一人で有ります！”それも子供たちは、やれ厚南・上宇部・琴芝に住んでおりますと話す。じいちゃん、ばあちゃんが寂しそうに語るが何故二俣瀬ではないのか？と腹ただしい。故郷を守るためだけに住でおられる。

周りは荒果てた段々の水田跡があるのみ、「つわもの（ここでは百姓）どもの夢の痕」ただ言われたことに何とかこちらの気持ちを安堵させてくれた。“ここからは小野田の海が見えて眺めもいい、何と云ってもわたしゃ！ここが好きであります。”と

国の農林行政から商工業優先主義に変え、身体を使ったきつい野ら仕事から安易に収入のよい仕事が世の中の流れになった事に問題が有ったのではないだろうか？と思わざるを得ない。

竹林調査で8年経過して拡大や新規発生した場所が殆どで、減少した所や保全された場所は3か所しか発見できていない。それも行政の援助で竹を切り出した跡にヒノキの植栽が行われた所であった。

竹林の保全は、もう自力ではやっていけない、大きな力が無ければ都会から離れた奥はより大藪になり国も衰退する。

5. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

（3）クロサナエ (*Davidius fujiana* Frasea) サナエトンボ科ダビドサナエ属

前回紹介したダビドサナエの仲間、大きさや姿かたちはそっくりさんのトンボ、胸の模様も似ており見分けが付きません、全体的に黒が多い感じ、尾部付属器などの特徴を知っていないと同定できないトンボです。

やはりこのトンボも日本特産種で、本州、四国、九州に分布します。出現時期はダビドサナエとほぼ同じ時期で4月上旬～7月下旬ごろまで見られますが、成虫は溪流沿いに茂った樹上に止まることが多く、地上にはなかなか下りてきませんので、見つけることが大変難しく、溪流の岩などに止まった所を撮影するのは大変な努力を要します。見つけるためには溪流沿いを歩き、4月下旬の羽化直後の個体、もしくは最盛期の5月ごろが見つけるチャンスが多いと思われます。標高の高い公園の樹木や、高山の頂上付近でも見られます。

このようにクロサナエは見つけることの難しいトンボです、県内でも分かっている生息域が限られており、多いのか少ないのかよくわかりません。このトンボの棲息地確認は幼虫調査や羽化の調査が有効のようです。

筆者はクロサナエの幼虫や羽化一式の撮影は十分にできているのですが、成虫の生態写真を多く持ちません、昨年頑張ったのですが、成虫の姿は撮れませんでした、今年も溪流に入り、クロサナエの成虫を追う予定ですが、小さなトンボだし、小高い樹上にいますので撮影も難しく、成虫のトンボ写真が筆者にとってはこれからの課題です。



クロサナエ♂の羽化↑ （下）↓樹上の本種♂

クロサナエ♀の成虫↑、長野山にて



6. 会よりの連絡事項 (事務局より)

(1) 4月6日(第一土曜日)9時から平成25年度総会です。会費1000円持参下さい。
又参加できない方は色々な方法でもいいですから送ってください。

(2) 同総会時、天気良ければ午後エコアップを行いたくご協力をお願いすることになりました。

参加可能な方はお弁当を持参下さい、

(3) 一般活動日に参加出来ない会員の方も、必ず総会に出席願います。

7. 編集後記

春になりました。3月16日の作業の日には、鶯の鳴き声がビオトープにこだまし、おたまじゃくしが孵化し、ふきのとうの蕾が開きかけていました。

暖かい日差しを浴びながら倉庫と東屋周りの草引きをすると、面白いほど草が引けました。土がふっかふかで柔らかいせいか、根ごとスポッと引けるのです。

小さな雑草はそんなふう丸ごとすぽっと引けますが、やはり大物の場合はそういうわけにはいきません。大物の雑草の場合は根が太く深く伸びているので、太い根が半分くらい見えるまで掘り、その先も土を掘り起こして抜けやすい状態をつくります。そして、いよいよ引っこ抜く。と、その根にたくさんの土がついてきます。それを鎌の先で丁寧に落とします。千切れて土に残った根をさらにひっぱると、縦にも横にも遠くまで根を張っていることがわかり、その生命力に感心します。地上にひしめく雑草たちは、少しでも栄養分を土から取ろうと、他の草の根をかき分けるようにして根を伸ばしているのです。細く、長く、細かく、遠くまで！

地上からは想像もつかない根っこの競争が、地面の中では行われているのですね。

(中本 亜矢子 記)